

本庄
すまいるの素
×
楽しみと
魅力

養蚕と絹のまち



国登録有形文化財 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫



120年の時を刻んだ
新たなまちのシンボル



煉瓦倉庫
Facebook



全国有数の繭市場として栄えた本庄町（明治45年）



建設当初の本庄商業銀行と煉瓦倉庫

明治5年（1872）、官営富岡製糸場が設立されたのを契機に、本庄は全国有数の繭の集散地となっていました。周辺には製糸工場が次々と建ち、繭を供給する養蚕農家も栄え、一大絹産業地域として発展しました。こうした本庄の経済と絹産業を支えていたのが本庄商業銀行と煉瓦倉庫です。明治29年（1896）に完成した煉瓦倉庫は、担保として預かった繭や生糸を保管しておく倉庫として使用。本庄の経済を支えたのはもちろん、絹産業が発展していくうえで重要な役割を担いました。

なお、この倉庫は当時の最新工法で建築され、わが国の近代化遺産の一つでもあります。

そして平成29年（2017）4月、新たな市の交流施設として生まれ変わりました。赤煉瓦の壁や木組み（キングポストトラス）の美しさは健在で、1階は交流・展示スペース、2階は多目的ホールとなっております、広く市民に活用されています。

The Brick Warehouse of the former Honjo Commercial Bank was built in 1896 as a warehouse for storing cocoons and other items as collateral. This is a precious ancient foundation that once supported the silk industry and economy of Honjo, and is part of our heritage of modernization as well. The warehouse was reborn as a new civic facility for exchanging in April 2017. The beauty of the red brick wall and timbering (king-post truss) still remains. The first floor is space for exchange/exhibition, and the second floor is a multipurpose hall. The new facility is widely utilized by citizens.

競進社と 高窓の里

生糸の生産に多大な貢献
誇るべき近代化遺産

絹産業の急速な発展に伴い、絹の原料となる繭の生産が盛んになっていきました。蚕の飼育法「派温暖育」を考案した木村九蔵は競進社を結成し、明治27年（1894）には競進社模範蚕室を建設しました。

これは床下に炉を設けて蚕室内の温度管理を行い、床下の吸気口から空気を室内に取り入れ、「小間返し天井」を通り抜け屋根上の高窓より換気する仕組みの蚕室です。蚕種の改良、養蚕飼育の指導、指導者の派遣など積極的に活動した競進社は、当時日本の輸出品の大半を占めた生糸の生産に多大な貢献を果たしました。市内には、東小平地区をはじめ養蚕業が盛んだった頃に造られた高窓のある養蚕農家が今も数軒残っています。なお、競進社模範蚕室は、県の文化財に指定されています。

Kyoshinsha Mohan Sanshitsu, with a structure that is suitable for the method of rearing silkworms invented by Kimura Kuzo, was built in 1894. Kyoshinsha largely contributed to raw silk production through actively conducting silkworm species improvement and instruction about the rearing of silkworms. Silk-raising farmhouses with windows placed on the tops of the roofs built at the time when the sericulture industry was prosperous still remain in the city. In addition, Honjo fabrics, which are said to have been created by farmers to produce a thick weave as their everyday clothes, have been handed down.



本庄織物（本庄絁）を後世に

本庄織物とは……

本庄市及び児玉郡内で生産されている絹織物です。もともとは、農家で養蚕時の繭から自家製の糸をとり、普段着として太織を製織したのが始まりでした。絹糸の風合いを活かした先染めによる製法で、真綿糸を使って織り上げられるので、独特な織味が生まれるのが特徴です。

本庄すまいる人 [interview]

黒澤織物 反町 眞弓さん

伝統工芸士である父と母の背中を追って、この糸道に入って10年になります。子育てが一段落した頃、織物関連の職人さんと関わる機会があったことで、改めて、両親の仕事の偉大さに気づかれ、継ごうと心に決めました。両親の技術を受け継ぎながら、「私色」を加えた本庄織物を手がけていきたいと思っています。



本庄すまいる人 [interview]

埼玉県伝統工芸士 古澤織物 古澤 優泰さん・あぐりさん

先代から本庄織物を手がけて約100年。図案を作って、糸を染めて、機を織るという昔ながらの工程を守り続けてきました。10年ぐら前に購入したうちのストールを今でも使ってくれているお客さんを見ると、本当にうれしいですね。丹精込めて作り続けてよかったと自負になるし、やりがいにもつながります。

